

7月に入り、プール検査や学校環境衛生検査等で来校する機会が多くなると思います。学校薬剤師関連の情報提供をいたします。

～教職員の方にお渡ししたり等ご活用ください。 横浜市学校薬剤師部会作成～

①執務記録簿について

教育委員会より各学校にメール便にて発送されました。各学校には近日中に届く予定です。ご活用ください。

②横浜市禁煙支援薬局事業研修会について

研修会の中に学校薬剤師のための「喫煙防止教室の効果的な進め方」の講演があります。この研修会は学校薬剤師の業務の一貫になりますので、参加されましたら執務記録簿に横浜市嫌煙支援薬局事業研修会に参加内容—喫煙防止教室の効果的な進め方とご記入ください。

③給食室立ち合いから

給食室での異物混入で一番多いのは、「ざる」の金属片とプラスチック片だそうです。

「ざる」は毎日使用し洗って乾燥の繰り返しのため消耗が激しいそうです。

給食室に検査に入った時には「ざる」の状況を確認し、劣化している場合は早めの交換をお願いします。

「中心温度計の校正は確認していますか」と聞かれ、初めて中心温度計の校正？確認？と気が付きました。揚げ物などの中心温度をせっかく計っても温度計が正確でなくては何の意味もありません。

年3回の検査の時には中心温度計が校正されているかの確認をお願いします。

④薬物乱用防止キャンペーン

各学校にキャンペーンのチラシとポスターが配布されています。

学校によってはすでに配布が終わっているところと袋からも出されていないところがあります。6、7月に執務した時に小学生は5、6年生、中学校は全校生徒への配布と、絵画と標語の作品募集への応募をお願いしてください。宜しくお願いいたします。

⑤アタマジラミ、園児や児童に感染広がる

保育園児や小学生の間で、頭に寄生するアタマジラミの感染が広がりつつある。繁殖力が強く、感染すると強いかゆみを生じる。シラミを知らない親が増え、発見と対処が遅れているのが感染拡大の一因とみられ、幼い子のいる家庭では注意したい。東京都豊島区の池袋保健所では、保育園長に講習をするなど対策に力を入れる。家庭での対処法（図表参照）は、東京都が作成した冊子「アタマジラミ読本」や製薬会社のホームページなどが参考になる。



▲国立感染症研究所
昆虫医科学部提供

◆家庭での予防と感染したときの対応

- | | |
|---|---|
| 予
防 | <input type="checkbox"/> 帽子やタオルを共用しない |
| | <input type="checkbox"/> 頭と頭を接触させない |
| | <input type="checkbox"/> 毎日洗髪し、子どもの頭は大人がまめに確認する |
| | <input type="checkbox"/> タオルや衣類などを毎日洗濯する |
| 感
染
し
た
と
き
の
対
応 | <input type="checkbox"/> 皮膚科を受診する |
| | <input type="checkbox"/> 目の細かい専用クシで髪をとかす |
| | <input type="checkbox"/> 卵が付着した髪を1本ずつ切る、髪を短くする |
| | <input type="checkbox"/> シラミ駆除薬を使用する |
| | <input type="checkbox"/> 家族に広がっていないか確認する |

(東京都の冊子などから)

◆アタマジラミ 体長1～3ミリほどの昆虫で、人の頭に寄生して頭皮から血を吸って繁殖する。頭と頭の接触や、タオルや帽子の共有などで感染する。症状はかゆみ。成虫は髪にしがみつき、卵も粘着力があり、洗髪では落ちにくい。駆除薬や専用のくしなどで駆除する。